報告

郷土の歴　岩戸山古墳を訪ねる

第16回久留米ん町探検隊　11月6日

筑紫君磐井に会いたい！
ヤマトの大王（おおきみ）継体天皇のそれに匹敵する巨大な前方後円墳。前方後円墳は教科書で見るものと思っていませんか？今回は、北部九州の中でもずば抜けて巨大な「岩戸山古墳」と周辺の古墳群を探り、巡り、歩く（さるく）探検です。　　会員　隊長・世話人　高木保幸

古墳ウォークルート（約２時間の行程）
①岩戸山歴史文化交流館（シアター案内）
②岩戸山古墳（館員による現地案内）
　途中に高床式倉庫・竪穴住居在ります。
③４号古墳　（開口している）
④吉田　大神宮
⑤乗場古墳（希望者のみ）
⑥交流館にて懇談会（昼食後解散）

久留米ん町探検隊も回を重ねて好調、初冬の好天に古代・磐井の君の社会を楽しみました：石人石馬のある広場

恒例の「芋煮会」　津福サロン会場：日時：11月５日（土）

秋晴れの快適な空気の中。恒例の芋煮会へ参加しました。
確かに集まる人数も昔と比べて少ない感じでしたが、久し振りに会話が弾み、シニアネットの恒例の行事の一つとして、立派に役割を果たしていると感じて楽しみました。
私を含めて皆に加齢を感じましたが、嬉しかったのは～～～
ロイさんの手羽先、と秋刀魚の焼き物～今津さん。芋煮の味は、昨年同様に美味しく感じました。　会員　禿山一夜（馬場亮二）

国分幼稚園の芋掘り会（11月２日）の写真

幼児の芋ほり大会

理事　丸山まつみ

「くるるんるん」からお礼状を頂いています

SNK農園部のみなさま、子どもたちは大喜びです。いつも大変お世話になっております。
　先日はくるるんるんの親子芋堀り会にたくさんのご協力をいただきありがとうございました。良いお天気にも恵まれ、おかげさまで無事に楽しくお芋の収穫を終えることができました。
　参加された親子の皆さんも、「なかなかこういう体験ができないのでとても楽しかったです。」「親子のいい思い出ができました。」と大喜びでした。参加者がお芋を収穫しやすいように、と朝早くから準備をしてくださり、心のこもったおやつまで用意していただき、とてもうれしく感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。　　特定非営利活動法人　子育て支援ボランティアくるるんるん　　芹田隆子

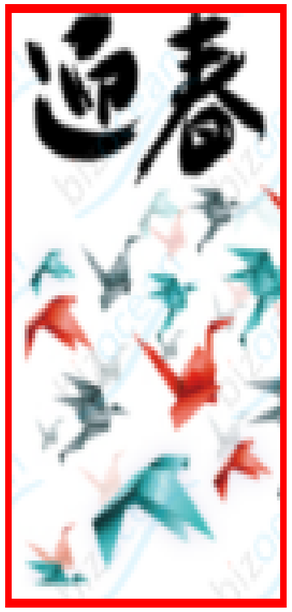
NPO法人　シニアネット久留米・広報 Vol.66　2017.1.1

SNK

SENIOR NET KURUME

編集・発行
NPOシニアネット久留米
理事長　金子忠次
久留米市御井町387
TEL　0942-65-4545

新年にあたって　　理事長　金子忠次



会員のみなさん　明けましておめでとうございます。
今年はSNKがNPO法人になってから17年目となります。設立から17年を経過して SNK は変わってきました。当初は全ての活動がパソコン中心に展開されていましたが、今や様変わりしてパソコンは我々の活動の極く一部にすぎなくなりました。
今後の SNK の活動の方向性はまだ手探りの状態ですが、昨年の総会でも申し上げた通り、中でもシニアの切実な問題となりつつある認知症の問題への取組みと、色々な意味で"SNKを楽しくする"ための活動、という点に的を絞って活動していきたいと考えています。
認知症については「オレンジカフェ設立懇話会」の集りを数回開いてきましたが、まだ SNK 内部での啓発運動に止まっています。カフェの設立までは道遠しですが、ゆっくりと取組んで行きたいと思っています。
"SNKを楽しくする"活動は徐々に進んできていますが、まだ模索段階でこれからが本番だと思っています。いまの大きな問題は会員の高齢化とそれに伴なう活動力の低下です。次第に外に出ての活動が億劫になってきていませんか。特に認知症は近い将来に我々に降りかかってくる切実な問題です。その対策としても SNK での活動は認知症防止のために大いに役立つはずです。また、にこにこステップ運動とスロージョギング教室へも久留米市、福岡安全センターと協業して10年になります。安全で誰でもできる有酸素運動が見直されてきました。私たち自身がこの運動を率先して行い、シニアには健康への気配りが欠かせない、ことを実践しましょう。

お知らせ

「第38回久留米市ボランティアフェステバル」の案内
地域のニーズが多様化、複雑化する中でこれまでの福祉制度の枠組みだけでは対応が困難な時代になっている。そこで、ボランティア活動やボランティア団体等の大切さを多くの市民に伝えるとともに情報交換や交流を通して興味関心を深め、ボランティア活動の輪を広げ活動を促進することを目的としている。SNKも参加することで会員の加入促進を図るものです。

１、日時　　１月22日（日）　10時～15時30分
２、場所　　久留米シティプラザ六角堂広場　バザー会場
３、バザー　　参加出し物『焼きそば』
４、諸事項　　参加責任者　　：金子理事長
　　広報.宣伝活動　　：牟田理事
　　バザー会場リーダー：保坂理事

＊実行委員会（SNK内部）を１月11日に予定します。参加応援お願いします。　　理事　保坂恵美子.

新年を迎えて、ますます元気なシニアたち
報告　SNKオレンジカフェ

１１月度　オレンジカフェ（認知症カフェ設立）懇話会　：11 月 9 日

国の認知症施策を加速するための「戦略」である新オレンジプラン」の概要

１・概要の説明と理解するための学習をする。

「新オレンジプラン」➡国家プロジェクトとして全省庁が取り組むべきとして、2015 年 1 月に発表した施策。

２・七つの柱からなるオレンジプランの概要

①認知症への理解を深めるため普及・啓発の推進
　認知症サポーター800 万人（人数目標）達成・・＜SNK でも実施中＞など

②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護などの提供
　認知症初期集中支援チームの設置など➡久留米市でも、10 月に、設置

③若年性認知症施策の強化
　相談窓口設置 etc・…久留米市長寿支援課

④認知症の人の介護者への支援
　認知症カフェの設置等➡久留米市内で、4 軒設置中
　先ず、中学校校区１７軒ほが設置目標

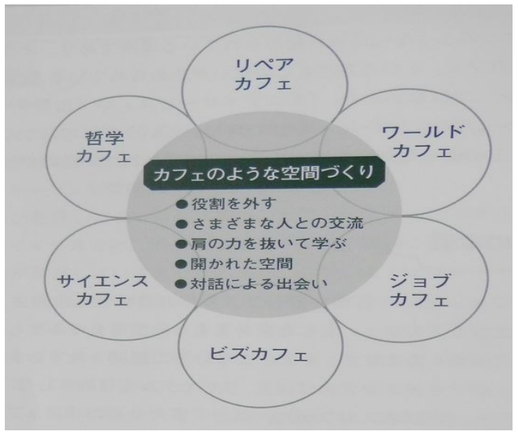
⑤認知症の人を含む高齢者に、やさしい地域づくりの推進
　生活支援コーデイネーター制度等の設置普及 etc

⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、
　介護モデル etc の研究開発、およびその成果の普及の推進

⑦認知症の人やその家族の視点の重視を学習して、
　↓
　久留米市での進行状況を、解説した。
　この内容はもう１度復習する必要があると思われる。

コーディネーター：理事　江上憲一

超高齢化社会は
認知症と言う病を伴い
おお急ぎ足でやってくる
隣人同士が助けあう社会へ
変革と進化で変わらねば
経ち行かなくなる
今日からでも！



認知症対応型共同生活介護事業
グループホーム
つつじ苑
御井つつじ苑　介護保健事業所番号 4071600912
国分つつじ苑　介護保健事業所番号 4071601258

MORIMITSU
㈱森光商店
Grain,Food,PetlifeDiv
お客様の「価値」を創る商店へ
『価値創造商店』
本店佐賀県鳥栖市藤木町若桜9-7
TEL　0942-85-1125
Fax　0942 - 82 - 9780

シニアネット久留米広報 Vol.66　2017.1.1

認知症カフェは、認知症をサポートするためのだいじなシステムです。
カフェの運営には基本的な知識や介護の初歩的な技術が求められます。またボランティアとしては、人権問題をはじめ人間同士が接触することで起きるだろう関係性が大きな問題となります。社会人としての尊厳を守りながら、人と人の間に発生する信頼を持ち続けることは、大変な苦労を生むだろうと思えます。
人の尊厳を認めながら、徐々に壊れていく人間を見つめていく仕事と考えると大変辛い、また、認知する能力の問題は個人差の大きなものだけに、個人的な要素が大きく、毎日の健康管理は欠かせない。

１０月度　オレンジカフェ（認知症カフェ設立）懇話会　：10 月 24 日

認知症関係情報の報告

１・認知症トラブル　家族の責任　（現在の認知症患者は 460 万人）

資料：中央法規 2016.10　認知症トラブル　家族の責任

①　『JR 東海 91 歳　認知症患者徘徊中、列車にはねられ死亡 2007 年』
JR は損害賠償請求訴訟を起こす
2016.3 判決⇒成年後見人も配偶者も子どもも一般的に法的監督義務者には当たらない。

②『2013 年 4 月：自宅の火災により隣屋との係争』
火災による被害『300 万円』請求(隣屋被害者)　⇒　100 万円を加害者側振り込み
被害者による再請求 200 万円：裁判を通して隣人関係は無くなり感情対立

Ⅱ・認知症カフェの代表的な２タイプの報告

資料：認知症カフェ読本　中央法規より要約

☆オランダ型　⇒地域を巻き込んだオープンな認知症カフェ
医師・看護士・家族・本人が話合いを繰り返しながら情報を共有し共通の認識を持つなど本人の意思を尊重するプロセスを惜しまず行う
本人の主体性を保つため社会全体で考えると言う姿勢は、国の認知症カフェの基本

（オランダ　国の特徴）
オランダの国情：国民１人当たりの募金額は常に世界のトップクラス
様々な価値観を容認する寛容の国であり他民族に対しても寛容で差別観は少ない
市民レベルでも、ホームレスにも易しく対応
小国ゆえに他国と強調しながら独自の新しいやり方を生み出している安楽死の先進国

☆イギリス型（スコットランドとは違いがある）⇒　本人・家族のための認知症カフェ
認知症カフェはオープンセッションという形をとる
正式なルールや運営手法と言うものは無くアクテビティを実施する形で行われることが多い。一つの大きなテーブルを囲むところが多い(レクレーションを行うところも)

（イギリス　国の特徴）
多くは認知症の人と家族、そのケアに関わる専門職のみで構成される
支援仲間(認知症の人々やその介護に携わる人々)やヘルスケアの専門家とともに、オープンに議論し易いよう工夫を凝らしている。実生活に役立つ情報を参加者に提供、リラックスした雰囲気で専門家に問いかけた内容や互いに学んだことも共有される
国家戦略であるものの、実際の運営は寄付により運営されている運営は自由度が高い

コーディネーター：理事　一ノ瀬尚文

シニアネット久留米は安心安全に暮らせる街づくりを目指します